

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

成功しない決断に意味はない 古森 重隆 (富士フィルムホールディングス会長・CEO)

1. リーダーが決断を間違えると、組織は壊滅的な打撃を被る。ゆえに、私は富士フィルムの CEO (最高経営責任者) として、100 の決断をしたらそのすべてを間違えないという覚悟で日々の決断を下してきた。だが、決断の過程ではデッドラインのギリギリまで考え抜いても結論が出ないこともしばしばあった。腹を決め、可能な限りの情報を集め最後の最後まで考え抜く。それでも、はっきりとした優位性が見えない時が現実にあった。そのような時に、リーダーはどうすればいいのだろうか。
2. 私は「いずれを選択しても正しいのかもしれない」と考えることにしている。意思決定には常にデッドラインがあり、ライバルの動向を含め情報も刻一刻と変化している。その中で、経営者が完全な情報で判断できる機会はまずない。それを恐れて、意思決定を先送りするくらいであれば、どちらを選んでも成功の確率に大差ないと腹を決めて、いずれかの方向に足を踏み出す方がいい。
3. もちろん、その後は選んだ道を全力で成功に結び付けなければならない。リーダーの力量は決めた方向に社員を導き、実際に成功させること。決めたことに全身全霊を傾けていく。成功しない決断に意味がない。「やる」と決めたら徹頭徹尾、スピーディーかつダイナミックにやらなければならない。

(参考:「日経ビジネス」2014年3月31日号)

経営者のための理念・哲学

天からの授かり

1. 人は皆、天からその人だけの真実を授かってこの世に生まれてくる。その真実を發揮していくことこそ、すべての人に課せられた使命である。自らの花を咲かせるとは、この天真を發揮して生きることには他ならない。
2. 坂村真民に「本気」と題する詩がある。「本気になると 世界が変わってく 自分が変わってく 変わってこなかったら まだ本気になっていない証拠だ 本気な恋 本気な仕事 ああ 人間一度 こいつを つかまんことには」 相田みつをに次のような言葉がある。「プロというのは寝ても覚めても仕事のことを考えている。生活すべてが仕事。そこがアマチュアとの絶対差だ」。

(参考:「致知」:2014年7月号)

人事・労務について

人事異動の対象者

童門 冬二 (作家)

1. トップが部下を評定するのは、自分の経営理念をどれほど理解し、どれほど協力して、どれほど実績を上げたか、が物差しになる。肥前 (佐賀県) 鍋島藩の祖・直茂は、家臣の理解度を次のように分類している。「急だらし、だらし急、急急、だらしだらし」。
2. 急だらしは、命ずるとすぐ「わかりました」と言うが、実行段階では一向に実績が上がらない。だらし急は、命じたときは理解するのに時間がかかるが、いったん理解すると、後の行動は手際がいい。たちまち見事な実績を上げる。急急は、理解も実行も素早いタイプ。直茂は「鍋島家の家臣は急だらしが多い」と嘆いている。意識すると、言われなくてもわかる者、言えばすぐわかる者、いくら言ってもわからない者。最後のタイプは、本当に理解する能力を欠いている者、理解しているが意図的にサボタージュする者 (つまり確信犯) の 2 つに分かれ、異動の対象にすべきは最後のタイプである。 (参考:「週刊東洋経済」2014年4月12日号)

古典に学ぶ

天下の牝^{ひん}

(解説) 大国は川にたとえるなら、下流である。諸国はこれに合流しようとする。換言すれば、天下における「女性」である。諸国はこれに慕い寄る。女性は、みずから手を下すことなく、男性を意のままにする。つねに受身であるからこそ、それが可能なのだ。大国が小国にへりくだるなら、小国はおのずと大国に帰服する。小国が大国にへりくだるなら、大国はおのずと小国を受容する。

(参考:奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」):徳間書店